



編集・発行 山見妙勢能報部
〒563-0132 大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

苦と楽

新實信導

今年も残り一ヶ月となった。今年には新型コロナウイルスの流行によって、世界中が混乱させられた。

日本では、4月に新型コロナウイルス対策で「緊急事態宣言」が発令され、5月末まで自粛生活が続いた。これ以後、感染拡大防止のためマスク装着が推奨され、手指の消毒や室内のこまめな換気を行い日々感染予防に努め、今までにない生活となった。

振り返れば、平成二十一年に新型コロナウイルスが流行したが、治療方法は季節性のインフルエンザと同様なので、あまり問題とな

らなかったが、当時、小学生の息子が新型コロナウイルスに罹った。家中で感染防止対策を行い、息子は一室に隔離。食事やトイレに行くとたびに、ドアノブなどの手の触れたところには消毒を施し、一週間がすぎた。息子の熱も下がりが回復した。お陰で家族が感染することなく、事なきを得た。

私たちは、古来から幸福を求めるため、様々な努力や工夫を重ねてきた。物質文明を誇る西洋文化は環境や物質といった物事を科学的な技術面から改革し、人間の幸福に寄与してきた。よってウイルスに対してもワクチンや治療薬を開発し克服してきたのである。これに対して、精神の向

上を重視し目指す東洋文化は、人間をとりまく改革よりも、人間の内部を変えることによって生きがいと喜びを達成すべく努力してきた。それが仏教であり、自己自身を変えるのではなく、悲しみや苦しみを取り除くうとしてきた。つまり、相手を愛するのでなく、自分が変わることで、私

たちをとりまくすべてのものに対して受け取り方を変えるのである。同じことを苦と受け取るのが凡夫という悩めるものであり、楽と受けとめるのが仏という悟ったものなのである。どんなことがあっても今こうして生きていることを仏に感謝し、自己を向上させることにより、苦が楽となるよう仏の世界を目指して生きていきたい。

《法華經に学ぶ現代》

宿福深厚

にして

仏法に

生まれ値えり

『妙莊嚴王本事品第二十七』

導き下さる仏さま

此処であなたと会ったのは偶然でしょうが縁でしよか
私にやよきは分かります
ただ目と目が合ったときなぜだか覚えた懐かしさ
思わず知らず手を合わせ
素直な気持ちに
なりました

【12月の主な行事】

- ★清掃の日 15日(火)11時〜12時
- ★月例祈願法要 15日(火)13時
- ★月例祈願法要 22日(火)15時
- ★写経会・星嶺茶論・演奏会は 休止とします

※ご祈禱・ご回向等のお申し込みは、郵便・FAX・メールでも受付しております

【1月の行事予定】

- ☆正月歳始祈禱 1日〜15日
- ※歳始祈禱申込受付中です
- お問合せは寺務所窓口へ
- ※開運シールの授与
- ★清掃の日 15日(金)11時〜12時
- ★月例祈願法要 15日(金)13時
- ★月例祈願法要 22日(金)15時
- ★星嶺演奏会・星嶺茶論は休止

- ◎書初め写経会は例年金紙に写経します。今回は中止となりますが、お家で写経のご希望者はお申し込み下さい。
- ※出会の鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中
- ※登山カード押印は中止
- ※昇堂時はマスク・人数制限等
- ※感染防止にご協力下さい
- ※社会情勢により予定は変更することもあります
- ※送迎車の運行は、休止です
- 但し正月三ヶ日は奉賛会員専用シャトルバスあり

色心不二(しきしんふに)

小林 謙照

「お父さんこれ見て！」
 子どもたちが持っている袋の中を見ると、校外学習で掘ってきたさつまいもが入っています。「やっさいも！ やっさいも！」オリジンナル焼き芋ソングを歌いながら小踊りしている姿は、見ているこっちも楽しい気持ちになります。

子どもたちが掘ってきてくれたさつまいもで作った焼き芋の味は、上品な甘さと子どもたちの笑顔が相まって格別でした。

さつまいもの原産地は南米と言われている、日本には一六〇〇年頃、中国の福建省から沖縄(琉球)宮古島に入ってきて、のちに九州地方(薩摩)で栽培されるようになりました。もともと甘藷(かんしょ)や唐芋(からいも)と呼ばれていましたが、江戸時代起

た天保の飢饉で、徳川吉宗が救荒作物としてさつまいもを関東に広めた際、「薩摩(さつま)から伝わった芋」ということで「さつまいも」という名称が生まれました。ちなみに、美味しいさつまいもを見分けるコツは、くぼみがなくて丸みがあり、皮の色が濃いものを選ぶといいそうです。

現代日本は飢饉とは程遠い飽食の時代と言われています。ですが、好きなものを好きなだけ食べるため、かえって栄養不足になっている方も多いようです。当たり前ですが、からだは食べ

べたものでつくられます。毎日元気に過ごすために、栄養のバランスを考えて食事を楽しみたいですね。仏教では、色心不二(しきしんふに)といって、色(身体の働き)と心(心の働き)は二つの別のものではなく、切り離すことができない一つのものであると説かれています。

当たり前のことが当たり前ではない、ということを経験した一年でした。他府県への外出自粛を言われ、兵庫県と大阪府にまたがる妙見山の山門をどう越えればいいのか？ 思わず苦笑したこともありました。今まで通りにはできない。となる

体調が悪く弱っている時はマイナス思考に陥りやすいし、体調がよくなる時は思考も明るくなりま

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

かと考えざるを得ません。これは大変な労力を要します。でも単純な日々の繰り返しではなく検討し確認しながら新たな一日を作り上げるという、とても意義のあることではないでしょうか。コロナ禍の収束を願いつつ、より良い人生を築き上げていきましょう。

ご祈祷・ご回向開始の時刻設定のお知らせ

社会情勢に伴い昇堂人数調整のため開始時刻を設けます。

ご祈祷 9時半・10時半・11時
 12時・13時・14時・15時

ご回向 11時半・13時半

※開始時刻の30分前までにお越し下さい。

※ご参拝の際はなるべく事前のご連絡をお願いします。

※歳始祈祷期間中のご祈祷開始時刻は状況により変わります。

法華経茶話Ⅱ

自利行と利他行

法華経茶話の(特部)でも説明しましたが、大乘仏教の教えを實踐する者のことを菩薩と呼びます。

菩薩は釈尊と同じ悟りを得るために修行をし、また、釈尊と同じように慈悲の心で一般の人々に安樂をもたらすことを目指します。この内、悟りを得るために修行することを自利行、それに対して、一般の人々に安樂をもたらす修行を利他行と呼びます。

小乗仏教は自利行のみで利他行がありません。大乘仏教はこの点を激しく批判し、他人に奉仕する利他行を強調しました。釈尊ですら利他行に努めた結果、悟りを得たのであるから、利他行に励むことで、自利行も完成されると考えたのです。そして利他行は全ての生きとしけるものを救おうとする理想となりました。